

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390300051		
法人名	社会福祉法人 成仁会		
事業所名	グループホーム まちぐるみ		
所在地	〒022-0003 岩手県大船渡市盛町字町3番地1		
自己評価作成日	令和7年9月1日	評価結果市町村受理日	令和7年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は商店街の中心に立地し、こども園や小学校との交流会や町内の行事などに参加や見物をしたり地域交流や社会参加がしやすい環境にある。居室は全室にトイレ・洗面台付きの個室で、家族と一緒に宿泊できるようになっている。また、個々に自宅で使い慣れた家具などを持込いただき、在宅での生活が継続できるように、利用者お一人おひとりの現在に至るまでの事や生活パターンを知ったうえで、共通したケアの実践に取り組んでいる。また、体調管理については、日々の少しの変化も職員間で共有し、変化のあった場合には併設施設の看護師とのオンコール体制もできている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市内中心部の商店街の中にあり、小学校、認定こども園、消防署などの公的機関も近く、居住環境に恵まれている。建物には地域密着型老人福祉施設が併設されており、同一敷地内には昨年グループホームが開設された。今年の大規模山林火災の際には法人内各施設を開放し、当グループホームも炊き出しを行うなど地域の重要な拠点の一つとなっている。また、「まちぐるみ」の事業所名称のとおり、地域と連携した取組みや交流が活発に行われている。例えば、小学校のマラソン大会においてはそのスタート・ゴール地点となり、利用者と小学生がペアで走った。また、施設内では、ボランティアによるコンサートや手芸、陶芸及びフラワーマネージメントなどのカルチャー教室が数多く開催されている。法人理念の下、施設理念及び方針があり、毎年度の目標・テーマを職員に募集して定めている。「パーソナルケア」を支援の基礎とし、利用者の生活歴や状況を丁寧に把握・理解し、利用者自身及びその生活スタイルを尊重した個別支援を行っている。各居室も多くの私物が持ち込まれ、従前の生活環境の継続への配慮も行われている。また、全居室にトイレが完備され、防災グッズが常備されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年10月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝のミーティング時に、法人理念、事業所理念を唱和し、ユニット内にも掲示しながら日々の利用者対応など理念に基づいた対応が出来るよう意識付けをし、年度の事業所テーマも職員間で共有し、実践に繋げている。	施設理念として「自分らしく生活できる我が家づくり」を掲げ、その実現のために7つの基本方針を定めている。また、毎年度、事業所の目標・テーマを職員から募集している。これらは事業所入り口等に掲示するほか、毎日の申し送りや定例の会議等において職員間の共有を図っている。なお、今年度は地域の高齢社会への貢献をテーマに掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	地域交流としては、盛こども園や盛小学校、中学校、高校生との交流も行っている。その他地区行事の夏祭りには、法人全施設職員が手踊りの参加をしたり、事業所の庭でカラオケを提供したり交流を図っている。	商店街の関係者を委員とするなど、地元商店街はじめとして地域との一体感が築かれている。また、小学校と共催してマラソン大会を行い、生徒と利用者がペアで走るなどの子どもとのふれあいも定期的に行われている。多くのボランティアや市民が事業所を訪れ、コンサートを開催したり、各種趣味の教室を手伝うなどの交流もある。今年の大規模山林火災の際には、施設開放や炊き出しなど地域社会に根差した活動を行い、さらに地域との結びつきが深くなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所でのイベント(運動会、夏祭りなど)が有るときなど、地域の皆さんにも参加や付き添いボランティアなどの支援をいただきながら交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行政、地区の代表者、ご家族の代表、居宅支援事業所に参加をして頂いて、入退居状況や活動報告、利用者の日々の生活の写真付きの資料などの説明後に、意見や感想をいただいている。また、前回の外部評価で「委員の他にもこども園の園長さんなどにも参加していただけたらどうか。」というお話をいただき、オブザーバーで学童保育の担当者の方にも参加していただいた。	運営推進会議の委員は、利用者本人とその家族、民生委員や地元商店街関係者など地域の代表及び市担当福祉課長で構成され、協議内容に応じ適宜関係者を参加させている。会議は法人内他施設と合同で開催しており、記録写真や統計資料を用いて、利用者の状況や支援内容等がわかりやすく報告されている。また、事業計画や前年度事業報告なども、詳細な資料で丁寧に説明されている。幅広く議論がなされ、各種行事の企画運営などに反映された意見等も少なくない。	

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の行政の担当の方などから助言をいただいたり、担当者会議に出席した際に助言をいただいている。	全事業所対象の連絡会への定期的な参加や、介護認定の手続きをはじめ、必要に応じて生活保護制度や成年後見制度等の関連で連携をしている。法人として市の各種会議に参加する機会も多く、適宜情報収集を行っている。また、福祉避難所に指定されており、防災関連の協力関係もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の対象となる方はいませんが、身体拘束委員会での研修や法人のマニュアルをもとに身体拘束についての知識を深め職員間でも共有できるようにしている。特養と一緒に玄関で夜間は防犯上の理由で施錠をしている。	法人として身体拘束に関する指針及びマニュアルを作成している。併設及び隣接する事業所との合同委員会を設置しており、毎月会議を開催するとともに、年4回研修を行っている。研修では、身体拘束、プライバシーの保護、虐待及び感染症発生時の対応など幅広い項目が取り上げられている。また、身体拘束の実績がないことから、他施設の事例やヒアリハット事例の検討などを通じて職員の理解促進を図っている。スピーチロックは、職員相互に気づいた時点で相互に注意し合っている。安全管理上、玄関の施錠は、22時から翌朝5時まで行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を設けているので、定期的に研修を実施し、虐待が見過ごされることがないように職員間で虐待に対する理解を深め防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は権利擁護を利用されている方はありませんが、必要に応じて資料を活用し、職員で学ぶ機会を持っている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時の契約の際には、重要事項説明書・契約書を見ながら説明し、その中で分からない事、確認したいことがあった時には、再度説明をしている。他にも不安なことがある時はいつでも対応する旨を話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からは運営推進委員の方であれば、会議の中で意見や要望を聞き、他の利用者のご家族からは面会時にいらした時に聞いている。利用者様については月初めの入居者懇談会の時に要望などを聞いている。実行した時は広報に掲載したり、SNSでご家族へ利用者の様子を動画で送り、返事をいただいたりしている。	パーソナルケアは利用者の全人格を理解することを前提とするという原則のもと、入居前の生活歴等実態調査、毎月実施される「入居者懇談会」及び日々のふれあいの中で細かく把握し、職員間で共有している。入浴や食事などに関する要望などが多く、ほぼ対応できている。家族からは、来所の際や電話等で確認するほか、SNSでつながっている家族もあり、利用者の様子が動画で確認できると喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回の職員全体集会の時や年度末に職員の面談の他、必要に応じてその都度機会を設けている。	職員の意見等は、毎月の特養職員と合同の職員会議、年2回の人事考課面談、年度末の職員要望書などで把握している。出された意見等は、毎月法人幹部会議の場に報告し、必要な対応をとることとしている。設備や器具の購入、資格取得や自己研鑽に関する要望が多く、適宜対応している。また、居室へのエアコン設置などの検討も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務のシフト表作成をする前に希望公休を確認し、必要に応じて公休や年次を取得できるよう、職員のプライベートの時間を充実できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の全体集会や内部研修で研修を行っている。また、外部の研修にも参加することで他の職員の協力業務もあり、職員のスキルアップにも繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修に行った職員から研修を通して交流をすることで、職場に戻った際、他事業所の取組みなどを共有している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご家族、施設・病院の担当者、居宅ケアマネジャーから得た情報をもとに、入居前の面接で困っている事や不安なことを伺い、これからどうなりたいのか聞き取りをしながら、ケアプラン作成時ご本人の思いやなど、安心して生活できるような対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の申込時や面接調査の時や、現在の状況を聞き困っていることや分からない事、不安なこと、要望なども聞きながら、この話に耳を傾け必要としている支援を見極め、対応できるよう心掛けている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居の際は大きな環境の変化が伴うため、入居前の調査で自宅での生活を継続できるように、利用者と家族と担当ケアマネジャーからの情報を得ながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自立支援を考えながら、入居される方が、これまでの生活を継続できるよう、利用者の想いを理解し、その方の生活スタイルや意向を尊重し、出来ないところを支援していくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会や毎月発行の広報誌を通じて暮らしの状況をお知らせしている。また、運動会や夏祭り等の行事には、ご家族にも連絡し一緒に過ごしていただけるような企画をしている。その他日々の生活の中で、個人の誕生日には前もってご家族に連絡をし、来ていただくか遠方の場合は誕生会の様子をSNSなどで、送ったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅にいる時から行っている美容院への外出支援などに努めている。また、入居者懇談会や日常の会話の中で本人から希望を聞いて、行きたい場所があればバスハイクでその場所へ行っている。	馴染みの人や場所については、入居前の生活歴等実態調査等において、家族のみならず近隣の方々との関係なども含めて細やかに把握している。墓参や「盛道中踊り」「お天皇様参り」などの地域の伝統行事等に出向き、その時近隣の方にも集まってもらうなど、関係性の継続についても配慮している。また、季節の折々には、希望を募り、「バスハイク」として馴染みの場所で花見などを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の関係性を考慮した食事やレク体操の席を配置しているが、日によっては変化することもあり、職員が間に入り支援するよう努めている。家事を一緒に行ったり、洗濯物を利用者にたたんでもらったり、利用者同士が支え合いながら一緒に出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者様が入院し、そのまま退居された方についても、ご家族に連絡しご本人の様子を伺ったり、サービス利用などの相談支援にも努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	事前に暮らしをしていくうえでの希望や意向を本人と家族から聞き取りをしているが、日々の暮らしの中で把握できることも多く、入浴時や受診の付添い、食後の余暇時間などのマンツーマンでの会話の中で利用者の思いを聞き出せるように努めている。	入居前の生活歴等実態調査時に自宅のアルバムを見せていただくことや、毎月の「入居者懇談会」及び日々のふれあいの中で、細やかに人生の履歴把握に努めている。写真などの情報も多く、利用者あるいは職員間で、わかりやすく理解し合える工夫もみられる。利用者には、書道教室など自身の趣味や特技を活かせる機会があり、また食事の準備や清掃等を自ら進んで手伝うなどの様子も見受けられ、利用者の自主性が十分に尊重されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前面接調査の際、ご本人とご家族から生活歴や生活環境などを聞いている。また、居宅ケアマネジャーなどからも情報を得ながら、利用の経過等の把握に努め、今後のサービス支援に活かせるようにしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの生活リズムを把握し、24時間シートを作成し日々の1日の暮らし方、過ごし方を職員間で共有している。また、余暇活動のなかでも個々の得意分野を活かした支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人とご家族からの思いや希望、要望を伺い、介護計画に反映させている。家族には、面会時や電話連絡などで、意見や要望を聞いている。プランの見直しは3ヶ月毎を基本とし、モニタリングは毎月の職員会議で課題とケア方法などを話し合っている。	日々の記録や「24時間シート」を活用し、毎月の職員会議でのモニタリングを基に、ケアマネジャーが計画案、または計画の見直し案を作成している。毎月のカンファレンスや入居者懇談会の中で意見等を伺い、その上で再度職員と検討し、本人及び家族に提示・確認・同意を経て策定している。なお、計画の見直しは、3か月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケース記録をもとに、職員間で共有し毎月の職員会議で利用者の支援方法を話し合い計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	毎月の懇談会の他に、利用者の日常生活の中からニーズ対応できるよう心掛けている。また、併設事業所の看護師と連携をとるなど、柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者懇談会で話された行きたい場所などに、バスハイクで出かけたり、移動図書館の活用や美容師、理容師の訪問を受け散髪などを行っている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診はご本人ご家族の希望に添ったかかりつけ医としているが、大半の方が法人の嘱託医に主治医として診ていただいている。専門医の受診が必要な場合は紹介状をいただき適切な医療が受けられるよう支援している。また併設事業所の看護師とも連携をとれる体制を作っている。	現在は、利用者全員が同一の協力医療機関をかかりつけ医としている。通院には職員が同行し、体調や生活状況等を主治医と共有するなど連携がとられている。なお、かかりつけ医は夜間の対応も可能となっている。歯科は定期的に訪問診療がある。受診結果は家族に報告される。また、併設する施設の看護師との協力体制があり、適時助言等をもらうことができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師の配置はないが、利用者の体調に変化が見られた場合は、併設施設の看護師に相談をしたり、アドバイスを受けていたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関への情報提供を行い、入院中にも家族や担当看護師や退院調整員と連携をとりながら、情報を交換している。退院が決まった際には、本人と面会し退院調整員と面談をしながら、退院に向けての情報を得るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時、ご家族に対して、重度化した場合についての説明をしている。状態に応じてご家族と話し合い医療機関への入院や併設施設への住み替えなども行っている。また、事業所での看取りも行っている。嘱託医や併設施設の看護師が夜間の対応も行うなど協力体制を取っている。	年度により1人程度の看取りの実績がある。法人全体の看取り及び重度化に関する指針があり、本人や家族の意向を最優先した上で、利用者の状況に応じて、法人全体で連携して対応しており、利用開始時点や利用者の状態の変化等に応じ本人や家族に説明している。ほとんどの職員に看取りの経験がある。また、夜間や緊急時における併設施設の看護師や職員、及び協力医のバックアップ体制も整えられている。	

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルがあり、誰でも分かりやすい場所に配置し、内部研修などを行いながら知識、判断、技術など身に着け実践力の向上に努めている。また、併設施設の看護師に連携し協力を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月1回併設施設と隣接しているグループホーム3事業所で火災・地震・津波・水害といった様々な災害を想定して防災訓練を実施している。火災の訓練は発生場所を変え、避難経路も様々な想定し、津波、水害は2階以上への垂直避難を基本としている。近隣の法人の居宅介護支援事業所の応援体制を整えており、非常連絡網、アプリでの安否確認体制も整えている。	洪水浸水危険地域にあり、また東日本大震災等の経験もあることから災害対策には積極的に取り組んでいる。各居室にはヘルメット、居室の前には頭巾があり、利用者はそれをかぶり、浸水(津波)の時は三階に、火災の時は外に避難する訓練を行っている。避難訓練は、水害、火災、夜間想定など各パターンを設定して毎月実施している。食料や水、電気(自家発電)等も十分に備蓄しており、今年の大規模山林火災においては施設開放や炊き出しを行った。福祉避難所にも指定され、地域の防災拠点の役割も担っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設理念にも掲げている「入居者に優しく、人としての尊厳を守り、大切にします。」と意識付け、常に相手の立場になり対応するように努めている。利用者の入居前の生活歴からも、自分らしく今までの生活が継続できるように、努めている。また、プライバシーや接遇についての内部研修も実施している。	生活歴実態調査等において入居前の生活状況とを細やかに把握し、その人らしい暮らしの継続のための様々な工夫が行われている。従前使っていた暖簾を部屋の表札代わりにするなどの配慮から、全居室トイレ完備、脱衣所に専用収納棚設置などのハード面まで、随所にプライバシーへの配慮が見受けられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で話しやすい環境づくりを意識し、本人が自分で選択できるように支援している。また、会話の中からも希望や思いを汲み取り自分で選択できるような声掛けをしている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人に希望や思いを伺いそれを優先して、その方のペースに合わせてながら過ごしていただけるよう支援している。また、起床、食事、就寝の時間帯は、その時の気分や体調を考慮しながら、可能な限り本人のペースに合わせて対応している。また、家でどのように過ごしていたのか、家族に伺い、その方らしい生活リズムをしていけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に季節にあった服装の声掛けや希望があれば一緒に選んだり、髪を整えたりしている。また、月1回の理美容師の訪問があり、散髪を実施している。本人や家族の希望でパーマをかけたい方もおり、その都度対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日の食事の様子や個別の嗜好調査の聞き取りで好みを把握している。また、食べたい物の希望を聞き、メニューに取入れるよう努めている。ご当地メニューや手作り昼食、夕食、手作りおやつなどで、下ごしらえ・調理・盛付け・片付けなど声掛けしながら職員と一緒にやっている。食後に、「手伝うよ」と、自ら食器を拭いたり片付けたりする方もおります。	献立・食材の購入から調理まですべて手作りで行っている。利用者の要望を反映した献立、食材購入への同行、料理の下準備やテーブル拭きなど利用者の参加も多い。また、利用者自身がつく「手作りおやつ」の日もある。食卓には職員も同席し、会話を楽しみながら食事をする。献立も豊富で、地域伝統や季節を感じさせる料理となっており、これらは毎回写真に記録されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の食事量を把握し摂取量の記録を行っている。また、状態に合わせた食事形態で提供することもある。献立は併設施設の栄養士にアドバイスをいただきながら担当職員が作成している。実施献立についても栄養士からコメントをいただきながら、献立作成に活かしている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの声掛け、誘導や一部介助をし、洗浄剤なども使用しながら個別に対応している。入歯、自歯、口腔内にトラブルがおきた際には、協力歯科医院と連携し受診対応も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表や職員間での情報共有を基に、排泄間隔の把握を行い声掛けや誘導、見守りを行っている。	現在、オムツを使用している利用者はいない。すべての居室にトイレがあり、ほぼ自立して行うことができる。職員は排泄チェック表をつけ、必要に応じて声掛けを行うが、自主性を尊重し誘導することは少ない。声掛けや排泄失敗時には、本人の心情等に配慮した対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝乳酸飲料を取入れ、食事には毎食野菜の提供ができる献立を心掛け、甘味もオリゴ糖を取入れたりしている。また、運動習慣も意識し毎日地域交流スペースを利用し、365歩のマーチを歌いながら歩こう会を実施している。状況に応じて医師に相談し個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴は一人週2～3回を目安にしていますが、週6日入浴されている方もおり、希望があれば随時対応している。また、入浴を嫌がる方には、声掛けや対応を工夫しながら時間や入浴日を変更するなどして対応している。毎回色んな入浴剤を使用したり、菖蒲湯や冬至の柚湯など季節感を感じていただけるようにしている。	週2回の入浴を確保している。毎日入浴できる状態にあり、毎日のように入浴する利用者もいる。また、利用者の希望等により入浴日時を変更することもできる。ゆず湯や入浴剤などリラックスして入浴できるように工夫している。40分以上入浴を楽しむ方もいる。また、入浴介護時における身体状況の確認、衣服の着脱時や異性介助等におけるプライバシーへの配慮なども行っている。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	週1回のリネン交換、月1回のベッドパット交換行い気持ち良く休んでいただけるようにし、汚染時はその都度交換をし気持ち良くお休みしていただけるようにしている。また、思い思いの場所でくつろいでいただけるよう、リビングや廊下、共同スペースにソファ、テレビなど配置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの病歴、内服薬の用法や用量、副作用の注意書きなどを職員で共有し、管理を徹底している。誤薬防止のため、複数の職員で確認し、服薬時にお名前を読み上げ本人に間違いがないか確認している。変わったことがあれば、嘱託医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居前の生活歴などから、その方に合った支援を心がけ、調理、洗濯たたみ、裁縫などの支援を行っている。個々の趣味活動として、習字クラブ、フラワーアレンジメント、刺し子クラブなどを取り入れ気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の会話の中や入居者懇談会などで、希望された場所などへ可能な限りドライブに出かけるなどしている。また、施設の前庭にて野外食やビアガーデン、室内での縁日、カルチャークラブなど楽しんでいただけるよう、行事を取入れている。夏祭りには地域の方と交流し、楽しんでいただいている。	天気の良い日は敷地内を散歩することもあるが、外出希望は少ない。「バスハイク」として、花見や紅葉狩り、希望先へのドライブなどを行い、喜んでもらっている。また、事業者内に居酒屋風の場所(「まちの蔵舞(くらぶ)」)を設け、夜間外出の希望等への工夫をしている。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人が所持している方もあり、趣味活動などに使っている。施設に週1回販売に来てくれる業者もあり、その時自分で選んで購入したりしている。管理が難しい方は家族にお願いし、不足品がある際に連携している。一緒に買い物に行くこともあったが、現在も感染症予防のため、職員が買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持っている方が1名おり、好きな時に電話をしている。また、希望があった場合には、いつでも電話が掛けられる場所に設置し対応している。家族への手紙を出す際には、投函の支援をしている。また、年に1度母の日に往復はがきで家族へ手紙を書き、家族からも返信ハガキで母の日メッセージをいただいたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の場として、食堂、リビングにはテレビやソファなどがあり広いスペースになっている。その空間には、利用者が季節に合わせて職員と一緒に作った作品を飾ったりしている。照明器具には暖色を多く使用し、落ち着いた色合いで統一している。また、温度湿度に合わせて、冷房、床暖房を稼働し、扇風機を使用しながら換気ができるよう配慮している。	事業所は三階建ての1階部分にあり、フロアには広い玄関ホールと事務室がある。玄関から事業所内まで段差が全くなく、廊下は広く、天井を低くするなど落ち着いた環境となっている。居室、ホール以外にも家族が泊まったりできる和室の多目的部屋や数人で談笑できる小スペースもある。ホールや廊下には、利用者が作成した手芸、陶芸及び書道作品などが多数展示され、また紅葉やハロウィンなど季節を感じられるディスプレイも各所に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング以外にも居室付近の廊下にソファを設置し、利用者が個々にその日の状態や思いに合わせて、自由に過ごしていただいている。食事の後には、廊下のソファで利用者同士歌を歌ったり、昔の話をしたりして過ごしている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム まちぐるみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている。	できるだけ在宅での生活が施設でも継続できる ように、家の自分の部屋に合った使い慣れた家 具や装飾品などを持ち込んでいただき、本人と家 族と一緒に部屋作りをしていただけるよう声掛け をしている。また、本人が作った作品などが飾れ るよう支援している。	すべての部屋にトイレ、洗面台、ベッド、及びク ローゼットが配置され、テレビやタンスなどは自 由に持ち込める。利用者は、多くの私物を持ち込 み、それぞれに従前の生活環境に近い部屋作り をしている。また、各行事の写真や自身が作成し た陶芸作品などを飾るなど現在の暮らしを楽しん でいる様子である。頭巾やヘルメットなど専用の 防災用品も常備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫してい る。	施設全体の天井が低く家庭に近い環境になっ ているほか、床には弾力性のある材質で、手摺な ども握りやすく設計されている。居室内にトイレが あることで、トイレまでの動線なども考えながら家 具の配置などし、危険なく安全に生活が出来 るよう支援している。		